



佐山小学校運動場

28年の水害から 学ぶ

久御山町は山城盆地の中で最も低いところに位置し、町の北西部を宇治川が西流し、南には木津川が北西に流れています。さらには宇治市、城陽市などの上流部から下流する水を集め、町の東部を北流する古川の水が東一口に集まることから、内水を排除する治水対策は町の最重点課題となっています。



巨椋池排水機場

昭和28年の水害以降、河川改修や堤防の強化に併せ、内水排除対策が着々と進められています。

市街地からの内水を古川や宇治川に強制的にポンプにより排水する施設として、昭和48年には久御山排水機場（東一口）が、同53年には久御山町佐山排水機場（佐山）が完成。

そして、広大な巨椋池の排水を担う現巨椋池排水機場が機能強化され平成17年度に本格稼働しました。

(表)台風13号の被害状況

	御牧村	佐山村
被災者数	3,478人	3,044人
負傷者	10人	13人
家屋全壊	53戸	7戸
家屋半壊	102戸	91戸
床上浸水	337戸	327戸
床下浸水	59戸	153戸
田畠の流失	1,200a	—
田畠の冠水	36,760a	38,800a
道路決壊	45カ所	7カ所
橋梁流失	11カ所	6カ所
損害見込額	12億9,785万円	3億8,706万円

〔昭和28年災害の記録と防災のてびき〕より

特に台風13号による水害は、「巨椋池の再現」とまでいわれ、資料(表)の被害状況にみると、町全域が壊滅的に被災するといった大惨事となりました。しかし、幸いなことに死者は出ず、人的な被害も最小限にくい止めることができました。この水害のとき冷静に行動したのは、明治期の洪水を経験した高齢者たちであったと言われています。初めて経験する洪水に慌てふためく若者を制し、この状況であれば浸水するまでに十分な時間がある。まず家財を2階に上げ、次に握り飯を用意させるなどの判断と指示を与えて避難した例は数えきれないほどあったと言います。まさに「先人から伝えられた生



水没する御牧村



ポートで救出される中島の人々



土のうでふさがれる宇治川堤防決壊口



水びたしになった市田

二十六日前零時現在で旧巨椋池七百町歩をなめた宇治川の本流は同十時現在刻々と拡大、千五百町歩に達し、付近一帯は一大湖水を現出した。このため久世郡御牧村西一口、森、野村、島田の各部落をはじめ佐山村の一部では屋根のみを見せ、屋上で救援を求める人たちが各所に見られ、このため保安隊、宇治駆逐ん部隊では舟艇を出動させ救助作業に当たっている

〔京都〕昭和二八年九月二十七日

巨椋池干拓地を中心とする宇治、淀、御牧、佐山各市町村の恐怖が続いている。四市町村約七千の被災者は伏見桃源郷は依然中、宇治市大久保、小倉両校、淀町明親校などに分宿、一部は伏見向島の堤防で第二夜を送ったが、提燈をつけた舟で夜で家財を運ぶ人の姿も見られ、また今後の対策については被害市町村当局、被災者の間から、「木津川、宇治川の減水を待つべき」との声が起っている

〔大毎〕昭和二八年九月二十七日

巨椋池干拓地を中心とする宇治、淀、御牧、佐山各市町村の恐怖が続いている。四市町村約七千の被災者は伏見桃源郷は依然中、宇治市大久保、小倉両校、淀町明親校などに分宿、一部は伏見向島の堤防で第二夜を送ったが、提燈をつけた舟で夜で家財を運ぶ人の姿も見られ、また今後の対策については被害市町村当局、被災者の間から、「木津川、宇治川の減水を待つべき」との声が起っている

〔大毎〕昭和二八年九月二十七日